



いずみ

令和6年10月31日発行

<学校教育目標>

自ら行動する子
かかわり合い、
よりよい自分を
目指す子

学校HP



(Tel) 3480-3881 (Fax) 5497-7358 (HP) <http://www.komae.ed.jp/ele/izumi/>

校長 鷲見 真太郎

かかわり合い、よりよい自分を目指すために

生活指導主任 関 哲也

朝、様々な表情で登校する子供たちを正門や教室で迎え、「おはようございます」とあいさつを交わすところから和泉小の一日が始まります。毎日、校内を歩いていると子供たちと教員がふれ合う姿をたくさん目にします。ちょっと不安そうに登校して来る子に「よく来たね、一緒に行こう」とやさしく声を掛ける姿。授業中、ひざをつきながら子供の目線に合わせて学習活動を見守る教員と安心してノートをとる子供の姿。休み時間、校庭で鬼ごっこや長なわ跳びをして笑顔で触れ合う姿。校舎内、困ったことがある子供の相談にじっくりと耳を傾けている姿。提出された一人一人のノートにコメントをする教員の周りに集まる子供たちの姿。給食中、モグモグ食べながら「おいしいね」と満面の笑みで話す子供たちとその様子を見守る教員の姿。下校時の昇降口で、たわいなく楽しそうに話す子供たちとその輪の中で一緒になって笑っている教員の姿。

「チャイルドライン」という子供たちのための電話相談機関があります。そこには親や先生、友達には言えないことを相談するために電話をかけてきます。寄せられる相談内容として「雑談をしたい」が長きにわたってトップ3にランクインしています。この傾向はもう10年ほど続いていて、これは気軽に話せる相手が身近にいないというSOSのサインのひとつとも言えます。日常の何気ない雑談は、子供たちに「自分は大切にされている」という無条件の安心感をもたらします。大人が言葉で「愛しているよ」「大切にしているよ」と伝えることはもちろん大事ですが、普段から一緒に会話を楽しむだけでもその気持ちは自然に伝わります。特別なことをしなくても、雑談を通して「どんな自分でも大丈夫なんだ」「認められている」と感じられる安心感が、子供たちの自己肯定感の土台になります。雑談の積み重ねは、親や教員が気軽に「どうしたの？」と声を掛けられる空気をつくり、子供たちも「話してみようかな」と思える安心感につながるのです。雑談は、言葉を超えて心をつなぎ、子供たちがありのままの自分でいられる場所をつくる大切な時間なのです。

学校は子供たちにとって学びの場であると同時に心の居場所でもあります。私たち和泉小教職員は、子供たちが安心して学校に通い、学び、そして成長できる学校・学級を目指しています。6月に引き続き11月の「ふれあい月間」では、いじめ防止に力を入れ、子供たちが互いに尊重し合い、温かい人間関係を築くための活動を推進していきます。また、学校ホームページに記載している「いじめ防止基本方針」に基づき、安心できる環境を和泉小みんなで作っていきます。これまで以上に一人一人との心の触れ合いを大切に、共に笑い合い、心に寄り添って一緒に悩みながら前に進んでいきます。子供たちが自分の居場所としての和泉小学校をより身近に感じられる「ふれあい月間」を教職員みんなでも実現していきます。

11月の生活目標

話をしっかり聞こう

- 相手の目を見て話を聞く
- 相手の話を最後まで聞く

11月の安全指導

安全な生活「いかのおすし」

- 「いかのおすし」の指導
 - いか→行かない の →乗らない
 - お →大声を出す す →すぐに逃げる
 - し →知らせる
- ぜひ御家庭でも、自分を守るための行動について話し合ってください。